

Don't wait for
tomorrow.

Today is where the action is



Nejime Shiochi

今日もトットと 陽はのぼる



Don't wait for
tomorrow.

Today is where the action is

ねじめ正一

Nejime Shichi

〈著者略歴〉

ねじめ正一（ねじめ しょういち）

1948年6月東京生。青山学院大学中退。詩作のかたわら、東京・阿佐谷で「ねじめ民芸店」を経営。81年詩集『ふ』でH氏賞、89年、初の小説集『高円寺純情商店街』で直木賞受賞。各分野で囑望されている。

今日もトットと陽はのぼる

1991年12月20日 第1版第1刷発行

著 者	ね じ め 正 一
発 行 者	江 口 克 彦
発 行 所	P H P 研 究 所
東 京 本 部	〒102 千代田区三番町3番地10 第一出版部 ☎03-3239-6221 普及一部 ☎03-3239-6233
京 都 本 部	〒601 京都市南区西九条北ノ内町11 ☎075-681-4431
印 刷 所	株式会社 精 興 社
製 本 所	株式会社 大 進 堂

© Shouichi Nejime 1991 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合はお取り替えいたします。

ISBN4-569-53482-1

昭和五十八年五月五日こどもの日
はじめて後楽園球場に息子を連れて
野球を観にいった。

巨人対阪神戦だった。

小学校四年だった息子は

初めての野球観戦に

うれしいのやら

怖いのやら

さまざまの感情が

オチンチンに攻めてきて

その日は朝からおしっこがしたくて

トイレにいつでも

一滴もポトリと落ちず

なんどもなんども

トイレにいつでも

おしっこは出ず

我が家を出発しても

オチンチン攻撃は止まらず

後楽園球場がはるかにひかえる水道橋駅まで

行くのに途中一二回電車を降り

駅のトイレに駆け込んでも

やっぱりポトリ一滴の合図もなく

泣きべそをかきながら

やっとの思いで後楽園球場についたものの

おしっこ攻撃は休まずどんどんやってきて

試合どころではなく息子は

なんどもなんどもトイレにいき

トイレの前で息子を待っている私が思わず

「帰ろうか」というと息子は横に首を振り

最終回まで頑張つて観た甲斐があり

息子の大ファンだった原辰徳が二点

リードされながらもランナー一、二塁で

さよならホームランを打った途端に

息子へのおしっこ攻撃はふつとび消えて

帰りにハンバーグを二人前食べたのは

今でもはつきりおぼえている。

そして昭和三十三年四月五日

私も息子と同じ小学校四年のとき

生まれてはじめて父親に連れられて

後楽園球場に巨人対国鉄戦を観にいった。

息子には悪いが

私はおしっこ攻撃で攻められることなく

しかも

しかも

あの私の神様である長島茂雄様にはじめて
出会ったのだ。

春の日差しの中でホットドッグがうまさぎて

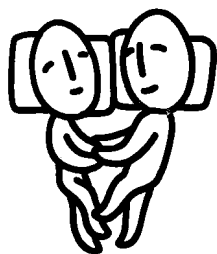
二個はおぼった私を

今でも父親はおぼえているだろうか。

父に——「おしつこと神様」より

金田もみ子と陽はのぼる

目次



おしつこと神様 1

第一部 今日もトットと陽はのぼる 13

第一章 純情家族 15

引つ越し 17

金縛り 22

草緑色のカーテン 28

夫婦の醍醐味 34

息子の言い分 40

ねじめ宗吾郎 41

娘とふたり 45

四台目のテレビ 47

ねじめ民芸店 49

私とこけし 55

蜜柑みかん一箱一回二個 60

父と仕入れの旅 61

父の句集『蠅取りボン』 64

第二章 ぼくの青春は店番だった 69

茶色い小説家宣言 71

父親からコーチされた「メンコ投法」 80

私の先生 82

いままででいちばん気持ちのいい眠り 83

かゆい、くさい、カツコイ 85

いじましかつた私の青春時代 87

シャレ帳と店番のあいだで 88

無名時代の私 101

第三章 腹いっぱいの幸福^{しあわせ} 107

お米はおいしい 109

におつてこそニンニク 110

「豚まん」の意地 112

グロテスクなぎのバワ― 113

高円寺阿波踊り 119

荻窪タイガーバームガーデン

120

すももとりひの強さ

126

第二部 本日も外野席

129

第一球 本日も外野席

131

フオークボール

133

桑田の美意識

134

公平野球

136

新浦と母性本能

137

不純物のない水滴の汗

139

選球眼を養う

140

投手のホームラン

141

第二球 長島親子に捧ぐ

143

科学番組に出て

145

幻の三冠王

146

キャッチボール

148

長島さんのサーピス精神

150

野蛮さ

151

野球選手の顔

153

野球用語の基礎知識

154

小谷フンの思い出

156

「老人」野球小説

158

老後の不安

159

長島さんの土の匂い

161

オートバイに乗って 162

『一茂くん日記』 163

すばらしい長島様 164

第三球 神宮球場への道 167

御曹司の雄姿 169

初のキャンプ見学 170

今年は違う一茂 172

潔さが好き!! 174

第三部 『一茂くんがんばれ日記』 177

あとがき詩 243

装幀——川上成夫・こやまたかこ
装画——野村俊夫

第一部

今日もトットと陽はのぼる

